

新幹線全線開業の経済効果について

株式会社 鹿児島地域経済研究所

鹿児島地域経済研究所は九州新幹線の全線開業に伴う経済効果を算出した。

3月12日に開業して以降、東日本大震災による旅の自粛などの影響を受け、観光、ビジネスともに縮み現象がみられたが、4月下旬になってようやく人々の動きが次第に活発化し、経済効果が顕著に表れるようになった。

全線開業による経済効果が明確に表れた5月以降、12月までの経済効果、及び県外宿泊者動向は下記の通りである。

◇5-12月の経済効果 10年同期に比べ、365億1000万円増

09年同期に比べ、263億2800万円増

◇県外宿泊客 5-12月 09年比 14.1%増

10年比 24.5%増

1-12月 09年比 2.9%増

10年比 10.6%増

1-4月 09年比 ▲19.5%

10年比 ▲16.1%

◇推計値との比較

昨年12月下旬に私どもの研究所では、2011年1-12月の経済効果を試算、09年に比べ県外観光客数12%増、経済効果を330億円と見込んだが、1月の新燃岳噴火と全線開業前日の大震災の影響による旅の自粛、萎縮の影響などで、1-4月の県外観光客は20%近く減少し、試算値は外れた。ただし、5月以降の県外観光客数は14.1%増と、おおむね推計に近い動きを示した。

◇経済効果推定の算定基礎

県の09年観光統計に基づき、10年と11年の月別県外観光客数をそれぞれ推計。11年の県外観光客数は771万5000人で、09年比2.9%、10年比で10.6%伸びる見通し。また、新幹線経済効果を算出した5-12月は09年比14.1%増、10年比24.5%増える見込み。

なお、11年11月と12月は関係業界などの聞き取りを基に、総合的に判断して両月とも前年同月比28.7%増で計算した。

県外観光客の一人当たり消費は、9月に行った新幹線利用客調査などを基に2万3000円で計算した。

株式会社 鹿児島地域経済研究所